

令和6年度 授業改善推進プラン2年（課題分析と授業改善策）

	課題分析	授業改善策	評価
国語	<p>①誤字脱字の無い、正しい文章を書くことへの支援が必要である。</p> <p>②自分の思いや考えが明確になるように文章で表現することへの支援が必要である。</p>	<p>①書いた文章を、自分で読み返したり、友達と読み合ったりする活動を設定する。日記などの書く活動を継続して行い、日常的に文章を書く経験が積めるように指導する。</p> <p>②文章の書き出し、文型の見本を示す。学習で示した文型は教室内に掲示し、いつでも確認できるようにする。また、語彙の支援として教科書巻末の「ことばのたからばこ」を活用する。</p>	
算数	<p>①繰り上がりや繰り下がりやの計算仕方を確実に定着させるための支援が必要である。</p> <p>②文章問題を読み取れず立式できない児童が多く、改善策が必要である。</p>	<p>①授業の初めや朝学習などの時間を活用し、100マス計算や学びポケットのナビマに継続的に取り組んでいく。</p> <p>②習熟度に応じて、図や具体物で視覚的に表すなどの支援を行い、問題文の「わかっていること」と「もどめるもの」を明確にすることを徹底する。</p>	
生活	<p>①見つけたことや分かったことを表現することに課題がある児童が多く、支援が必要である。</p> <p>②体験を楽しんだ後の学びや自分自身の成長への気付きを深めるための支援が必要である。</p>	<p>①伝えたいことを選ぶポイントを具体的に明示し、表現方法を選択できるように例示する。写真の活用も積極的にすすめる。</p> <p>②ICT等を活用して作品や文章の共有を簡略化し、児童どうしの気付きの共有を増やす。</p>	
音楽	<p>①元気に表現できるが、自分の歌声の強弱や音色を意識していない児童が多いため、改善策が必要である。</p> <p>②鍵盤ハーモニカでドレミの位置や音符を読めるようにするための支援が必要である。</p>	<p>①身体表現を取り入れて強弱や音色を意識したり、友達と表現を聞きあったりして自分の表現に気付くことができるようにする。</p> <p>②鍵盤を拡大した物を掲示して、視覚的に分かるようにしたり、楽譜を音階で読んだりしたりする練習をする。</p>	
図画工作	<p>①想像したり表現したりすることが苦手な子が、楽しさや自信を持てるよう教材の工夫をする必要がある。</p> <p>②子供が自分の力で伸びていけるようさらに言葉掛けに気を配る必要がある。</p>	<p>①「物を見る目」を養うため、自然などをよく見て感じながら制作し、自分の見方の幅を広げる。</p> <p>②用具の使い方や制作に興味を持ち易いように、様々な素材を経験させる。</p>	
体育	<p>①各領域に応じた運動の中心となる楽しさに触れることで、児童が夢中になって取り組めるような授業を展開していく必要がある。</p> <p>②児童が前向きに運動課題に取り組めるような、教師の言葉掛けを充実させていく必要がある。</p>	<p>①運動課題と児童の実態のバランスを見極めて、教材作りをしていく。課題の困難さによって生じる不安や、課題の易しさによって発生する飽和状態を防ぐために、学びの状況に適した課題を提示していく。</p> <p>②児童の学びを認め称賛する言葉掛けを、多くの児童に対して行えるように、ICT機器を活用する。授業後でも、教師からの前向きな評価や、児童自身の振り返りを行えるようにする。</p>	
道徳	<p>①道徳的価値から、自分事に捉えることが難しい児童への対応が必要。</p>	<p>①自分事になるように、発問の仕方やワークシートをねらいに即して精選していく。</p>	
ICT端末の活用	<p>①カメラ機能を活用し、観察の対象を写真として記録する。絵に比べて記録時間が大幅に短縮できるため、余裕をもって観察や文章記録の時間を設定できた。また、外での活動時間短縮にもつながり、熱中症対策にもなった。(生活)</p> <p>②タイピングができない低学年でも主体的に調べ学習をすることができるように、手書き入力を使用させる。(生活)</p> <p>③学習活動における対話や発表の場を録音・録画し、児童の自己評価や教師の評価に活用する。(国語)</p>		